

3年次

産業医学Ⅲ

(作業環境管理、作業管理、有害業務管理、企業見学実習)

【Industrial Health Ⅲ】

担当責任者 教授(衛生学) 辻 真弓

ねらい

産業医学Ⅲは産業医資格を得るために不可欠な科目であり、作業環境管理・作業管理を中心とした産業医学の基本的内容を把握することを目的とする。また、有害業務管理・企業見学をとおして労働衛生管理の実際について学ぶ。

学修目標

1. 騒音、振動、暑熱寒冷多湿・高気圧職場における労働衛生管理の概略を述べることができる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1, Ⅲ-2)
2. 化学物質取扱い職場における労働衛生管理の概略を述べることができる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1, Ⅲ-2)
3. 作業管理の意義と役割について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1, Ⅲ-2)
4. 運動器の障害予防にかかる人間工学アプローチについて説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-4)
5. 情報機器(VDT)作業の作業管理活動について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-2)
6. ストレスと疲労の違いを理解し、産業疲労の捉え方について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-3)
7. 労働負荷と負担との視点から勤務様態を把握でき、その作業管理活動のあり方について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-4)
8. 作業場の有害物質・有害エネルギーについて認識できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1)
9. 作業環境の測定・評価について理解できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-2, Ⅲ-4)
10. 作業環境の改善について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1, Ⅲ-2)
11. 電離・非電離放射線等の健康影響、有害業務管理について概説できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-3, Ⅲ-4)

事前事後学習の方法

1. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。
2. 実習したことをよく復習して体得すること。

成績評価方法・基準

筆記試験、実習・企業見学の出欠・レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

○教科書

特に指定しない。

○参考書

圓藤吟史 他 編 「事例で学ぶ一般健診・特殊健診マニュアル 改訂第3版」(宇宙堂八木書店)
厚生労働省労働基準局編「労働衛生のしおり」(中央労働災害防止協会)

3年次

講義:2208講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.4.1	木	3	産業中毒①	E	5	3	辻 真弓 (衛生学)
"	"	4	産業中毒②	"	"	"	"
4.2	金	5	作業様態と作業管理①(腰痛、上肢障害)	B	1	6	藤原 広明 (人間工学)
"	"	6	作業様態と作業管理②(情報機器(VDT)作業など)	"	"	"	"
4.8	木	1	粉じん・アスベストの作業環境管理①	E	6	1	森本 泰夫 (呼吸病態学)
"	"	2	粉じん・アスベストの作業環境管理②	"	"	"	"
"	"	3	有害化学物質の管理①	B	1	6	河井 一明 (職業性腫瘍学)
"	"	4	有害化学物質の管理②	"	"	"	"
4.9	金	6	作業環境改善・局所排気	E	"	"	東 秀憲 (労働衛生工学)
4.14	水	3	勤務様態と作業管理①(交代勤務・過重労働等)	B	"	"	藤原 広明 (人間工学)
"	"	4	勤務様態と作業管理②(交代勤務・過重労働等)	"	"	"	"
4.15	木	1	産業疲労①	"	"	"	"
"	"	2	産業疲労②	"	"	"	"
"	"	3	特定化学物質取り扱い業務①	"	"	"	李 云善 (職業性腫瘍学)
"	"	4	特定化学物質取り扱い業務②	"	"	"	"
4.16	金	5	電離放射線取り扱い業務①	E	6	1	岡崎 龍史 (放射線衛生管理学)
"	"	6	電離放射線取り扱い業務②	"	"	"	"
"	"	7	生物学的モニタリング	"	5	3	川本 俊弘 (学外)
4.23	"	3	騒音の作業環境管理①	"	"	"	大神 明 (作業関連疾患予防学)
"	"	4	騒音の作業環境管理②	"	"	"	"
"	"	5	作業環境測定法概論①	B	6	1	東 秀憲 (労働衛生工学)
"	"	6	作業環境測定法概論②	"	"	"	"
5.7	"	7	テスト	"	"	"	辻 真弓 (衛生学)
"	"	8	"	"	"	"	"